

山の恵みに感激

文化
なかの

中野市公民館報



～食用、毒きのこに分別する参加者～

2009 **11**
No.56
(通巻 No.588)
発行 中野市中央公民館
編集 文化なかの編集委員会
〒383-0025
中野市三好町一丁目4番27号
TEL 0269-22-2691
FAX 0269-26-2342

ふるさときのこ講座

西部公民館は10月10日(土)、自然に親しみ、関心を高めることを目的に、まだらおの湯周辺の山中で「ふるさときのこ講座」を開催しました。

曇天模様の天気の中25人が参加。約50種類のきのこを採取し、学習しました。

講師の水野優先生(長野県きのこ指導員)は「採取したきのこは自分で判断せず、必ず指導員に確認してから食べて下さい」とアドバイスしました。

参加者からは「参加することを心待ちにしていた。採ったきのこを、その場で先生が食べられるか教えてくれるところがこの講座の魅力」と話し、山の恵みに感激していました。

今月号の特集

地域の秋祭り

あおぞら

く霞む。

近くに目を向けると、黄金色のたわわに実った稲穂や真っ赤なリンゴなど、見るもの全て色鮮やかだ。

中野は特に寒暖差があるため、春夏秋冬がはっきりしていると思う。おかげで、季節を彩る農作物もアスパラ、モモ、リンゴ、ブドウ、稲穂と書き切れないほど多種多様だ。そして人が絡んだ素晴らしい光景もある。

先日、学校帰りの子ども達が、りんご畑の側で道草をしていた。友だち同士で「おいしそうだね」などと話していたのが畑の持ち主に聞こえたのか、農家の人は木からリンゴを取り、子ども達に配っていた。

「ぎこちないお辞儀だが、嬉しそうにはしゃぐ子ども達。そしてその姿を見て微笑む、畑の持ち主。

素直に「いい光景だな」と思った。こんな光景がずっと続いてほしいと願う。(0)

地域の秋祭り

特集

式三番叟（新野）

晋平先生も経験 後世に継承を

新野神社の秋祭りが9月26日に
行われ、市無形文化財の式三番叟
（しきさんばそう）などで、来場
者を魅了した。

夕方から神楽が、新野区、高遠
区内を賑やかな笛、太鼓の音色を



大きなかけ声で舞台狭しと踊る三番叟

新野の式三番叟は明治頃、
東京で覚えてきた人が伝え、
舞い方など古いものを正式に
伝えているものとして、貴重
だと言われている。
中山晋平先生も小学生の
頃、笛の座を勤めてたとい
う。伝統あるこの能楽を境内
を賑わかせていた子どもたち
が引き継ぎ、後世に継承して
欲しいと願った。（U）

響かせながら練り歩いた。
神楽が神社に到着すると、打ち
上げ花火、白滝のような仕掛け花
火が大勢の人を喜ばせていた。
社殿での神事が終了後、公民館
の舞台で能楽の式三番叟が行われ
た。
演技は翁、千歳、尉（黒面）
で、神霊を舞台に迎える役目の白
い面を着けた翁が、重々しい
荘厳な動作舞を披露し、続け
て千歳、最後に尉が登場し、
大きなかけ声で舞台狭しと活
発に舞った。

青獅子（安源寺）

火花舞い散る迫力 これからも脈々と

安源寺区の小内八幡神社の秋祭
りが9月20、21日に行われ、20日
の宵宮には、市の無形民俗文化財
の青獅子が奉納された。

青獅子は、江戸時代の寛文五年
（1665年）頃から行われてい
る獅子舞いで、青い板を二枚合わせ
た獅子頭の二人立ちの親獅子と、
滑稽な恰好をした一人立ちの子獅子



今年の青獅子は高校生が舞った

滑稽な恰好をした一人立ちの子獅子
とで踊る。
クライマックスを迎えると、青
獅子は派手に登場した。親は口と
尾から、子は手に持つサンダワラ
から火の粉をまき散らして、飛び
跳ねながら舞台に現れた。ダン、
ダンと飛び跳ねる音。シューッと
噴き出す火花の音。暗い舞台に火の
粉が散り、煙が充満するさまは、
観ている人を魅了し了倒した。
親は逆立ち、肩車、横転と曲芸
的に激しく踊り、子は親にじゃれ
るように踊る。親は肩車で歩き回
り、上役と下役が息を合わせて舞
台の提灯をたたき落とすとしていく。
提灯がいつぱい落ちると豊作にな
るといふ。残った提灯も子が跳び
上がって落とす。
初めて観た人は「火花を噴くの
もスゴイし、提灯を落とすパフォ
ーマンスが迫力だね」と感想を話
していた。今年の青獅子は高校生
が舞った。これからも脈々と先輩
から後輩へこの伝統を継いでいっ
てほしいと願う。（T2）

編集委員の体験取材

神秘的な太々神楽

赤岩区の高社神社の秋祭りは10月8日、台風18号に見舞われたものの、中野市に大きな被害もなく例年通りに行われた。

心躍る神楽ばやしに乗せて、年男と年女を主役に参道を練り歩いた。同神社では、今にも神様が舞い降りてくるような、幻想的な太々神楽が粛々と奉納された。

「太々神楽」は市の無形民俗文化財に指定されている。笛と太鼓の独特な音色に乗る舞いは、薄暗



笛と太鼓の音色に乗る舞いは優雅で神秘的

太々神楽 〜赤岩〜



い拝殿に映え、優雅で神秘的だった。抑揚のあるリズムと、練り返しの多い所作はしだいに見る者を無我の境地へ誘っていた。

歴史は古く諸説あるが、今から約100年前の明治後期に伝わり、その後、奉納された。現在は高社講の人を中心に伝習、奉納されている。

赤岩の太々神楽には11曲あり、全部こなすには3時間もかかるそうだ。体力も精神力も必要だが、かつて、選ばれし若者は厳しい稽古をつみ、ほとんどの演目をこなせたという。尊き伝統を継承していくには、当事者だけでなく、住民のより一層の協力が欠かせない。(草食人)

子どもが受け継ぐ

伝統芸能

上今井諏訪社の秋祭典夜宮が9月26日に行われた。

夜7時に東組、町組、南組の各組から、それぞれの神楽が威勢のよい太鼓、笛の音とともに練り出された。

1時間ほどかけて、祭典事務所のある上今井公民館に集合。ここで各神楽の獅子舞が披露された。

獅子舞は伝統的に地元の小中学生が行っている。東組の獅子頭は



獅子舞は伝統的に地元の小中学生が行う



豊田中学2年生の小林学君。彼は小学3年生から獅子舞のメンバーだ。

初めは厳しい練習に「いやだなあ」と思ったそうだが、毎年続け、今年東組の中心になって小学生をリードし、獅子頭を練習していた。

小林君は上今井公民館の舞では鈴、御幣(おんべ)の舞を堂々と舞った。「ちよつと間違えちゃった」と笑っていたが、その顔は、地元の祭りを支えている誇りに満ちていた。

上今井では、この秋祭典や太々神楽など、昔からの伝統芸能が継承されている。千古不易の心を、小林君たち小中学生が立派に受け継いでいた。(ムツゴロウ)

獅子舞 〜上今井〜

こんにちは 分館

三俣区は豊田地区の東北部、豊田飯山ICを下りて、飯山市に入る手前に位置しています。

世帯数14の小さな区ですので、こぢんまりとしていますが伝統的な行事が行われています。氏子を中心に7月の祇園祭、8月15日の風祭り、そして9月の秋祭りが行われています。

三俣分館

風祭りは、台風などによる災害がないようにと八幡神社にお参りします。

秋祭りは人手不足のため、神楽、太鼓・笛、獅子舞の出番はこの3〜4年ありませんが、復活させたいとの声も上がっています。

1月には育成会を中心にとんど焼きが赤坂、深沢区と合同で行われます。子どもと親が一緒になって作り、温かい炎を囲んで一年の安穩、息災を願う行事です。



みんなで作った「とんど焼き」

ふるさとへの歴史

大字永江の北東に三俣集落がある。替佐峠と旧飯山街道の交差する三又路に道しるべが建てられている。「右ハとかくしみち。ひだりせんかうしみち」と自然石に刻まれている。組では「石の道しるべ」と呼んで大切にしている。

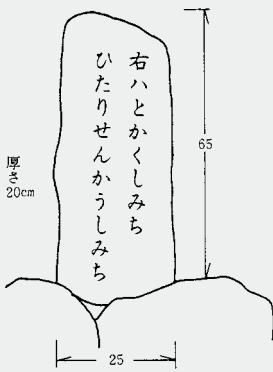
この道しるべは貴重なもので、当時の信仰の深さを伝えている。旧飯山街道は別名善光寺街道とも呼ばれている。この呼び名は街道の正式名称ではなく、各地から善光寺に向かって、道路案

内標識が建てられている地域より、自然に呼び慣らされた名称と考えられる。一例は遠く越後の小千谷本町を起点とする「右善光寺街道」の道しるべが残っている。

三俣の道しるべ

三俣に江戸時代、藩侯の江戸参勤 往還時の休息所があったと伝えられている。

また明治二年一里塚廃止令が出され、三俣の一里塚もなくなり「塞の神の木」が「サイノキ」に変わり、更に「エノキ」と呼ば



地元で大切にされている「石の道しるべ」



れた街道エノキも伐採されたと言われている。(小林修一)

近所ニュース

秋の高梨まつり

東町区民が主催する秋の高梨まつりが10月24日、高梨館跡公園で開かれました。

秋のまつりは今年で2回目となり、今年の春にもお花見イベントを開きました。会場

では、区民がキノコ汁や飲み物を無料で振る舞い、区内の商店もおでんやおやき、豆腐ドーナツといった名物商品を持ち寄り出店しま

した。アトラクションには東町木遣り保存会、東町を愛する会の東町子どもお囃子が出演し、地元の大人や子どもたちによる伝統芸能が披露されました。

このほか、おはなし玉手箱DonDonやフラヒナヒナによるフラダンスなども出演、来場者といっしょに「故郷」の大合唱も行い、まつりを盛り上げました。



フラダンスなど多彩なアトラクションでまつりを盛り上げた

今月の伝言板

講座の詳しい内容につきましては、各公民館までお問い合わせください。

■中央 ☎ 22-2691 ■北部 ☎ 26-0677 ■西部 ☎ 23-1024 ■豊田 ☎ 38-2922

	講座名	日時	場所	講師	備考
中央公民館	しめ縄づくり講習会	12/11(金) 18:00～20:00	中央公民館 講堂	大宮誠吉 先生	<定員> 25名 <受講料> 500円 <持ち物> 花ばさみ(無ければワ ラを切るハサミ) <申込み> 11月16日(月)から
	公民館ギャラリー 中野きりえの会のきり絵展				
北部公民館	高齢者大学	・12/ 1・8・15・22 ・1/5・12・19・26 ・2/2・9 13:30～15:00 (全10回 毎回 火曜日)	北部公民館		<受講料> 無料 <申込み> 11月26日(木)まで
西部公民館	シニア大学	・12/4・11・18・25 ・1/ 8・15・22・29 ・2/ 5・12・19・26 3/ 5 13:30～15:00 (全13回 毎回 金曜日)	西部公民館		<講師> 信州大学経済学部 講師 他 <受講料> 無料 <持ち物> 筆記用具 <申込み> 11月5日(休)から
	シャドウボックスを作ろう	・12/19・26 10:00～12:00 (全2回 土曜日)	西部公民館	湯本千絵 さん	<定員> 20名 <受講料> 材料費 600円 <持ち物> ティースプーン、はさみ <対象> 大人・小中学生 ※小学3年生以下は保護者同伴
豊田公民館	あの頃・あの時の歌	12/3(木) 13:00～15:00	豊田公民館	神田加奈登 先生	<受講料> 無料 <内容> 時代を代表する歌の合唱 とその頃の思い出の話

第33回 中野市婦人のつどい

演 題

「日々をおかしく生きて」

講 師

健康運動指導士 大熊 二三子 先生



ミニコンサート 「音泉たまごのぬくもりプレゼント」

大熊 二三子(うた・コカリナ) 中嶋 葉子(ピアノ)

日 時

12月8日(火) 13:30～15:00

場 所

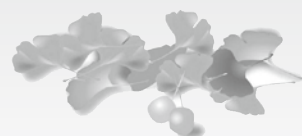
中央公民館 講堂

申込み

不要

受講料

無料



どなたでもお気軽にご参加ください

ツリバナの蒴果／新保(シゲル7)



実りの秋／一本木(月岡尚雄)

コムラサキ／市内(E)



バラと銀水引／市内(E)



三兄弟／上今井(㊦)

花と季節の写真募集

宛先

☎383-0025
中野市三好町一丁目4番27号
中央公民館
☎22-2691
Eメール c-kominkan@city.nakano.nagano.jp

文化なかの編集委員会では、中野市内の花や季節の写真を募集します。未発表写真に限ります・四ツ切りまで(ワイドサイズも可)のプリント、デジタルデータ(未加工のもの)。
氏名、住所、連絡先、作品名、撮影場所、花の名前等を書き送って下さい。匿名希望やペンネーム掲載はその旨をお伝え下さい。随時募集します。

季節のコラム

冬の到来を前にしての伝統行事、えびす講の時期がきた。

古くは収穫を終えた農家の人達が年越しを迎えるためにえびす講で沢山の買い物をした。

現在では年に一度の縁日として親しまれており、当市ではえびす講の名物「100人えびす」が市街地を練り歩き、祭りを盛り上げる。

産業展など多彩なイベントもあり、私たちは家族連れなどで賑わう。

あちこちで行われるえびす講の煙火花火とともに、寒い地方には冬將軍が訪れる。